



「なごや歴まちびとの会」

日時

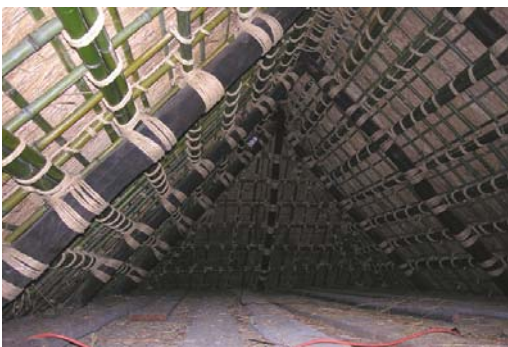
平成 24 年 12 月 15 日 (土) 13 : 30~15 : 00

場所

豊田市藤岡飯野町仲ノ下 1048-1

参加者 15 名

旧山内家住宅修復工事見学会報告書



419 号線の藤岡飯野交差点よりすぐ近くの小高い丘の上、豊田市藤岡交流館に隣接して当旧山内家住宅があります。あいにくの雨上がりの曇天の中、総勢 15 名の参加者に集まっていただき見学会を催しました。

当建物は、江戸時代中期の建造で、平屋建て、入母屋造り、萱葺き屋根で庶民住居形式の代表的民家(農家)です。昭和 50 年に愛知県文化財指定を受けました。昭和 45 年に旧藤岡村大字木瀬から現在地に移築(復原)されたそうです。修復工事施工は懶魚津社寺工務店が請負っています。現在は、外部修復工事の真最中です。

規模は、約 6 m×10m で、床面積 66, 2 m²あるとのこと。

当日は、屋根まで上がり、屋根萱葺き工事と棟の「置き千木」形式の棟仕舞の施工を見学させていただきました。なお、この萱は、山梨県富士演習場近くが産地だそうです。間近で萱葺きを見ることがなかったので、その量と傾斜角度に圧倒されました。萱屋根の総量としては、約 8 トンあるそうです。次に、建屋の内部の見学に移行し、一室型の平面形状で鳥居建形式となった小規模の農家です。外壁から内側に入った位置に独立して柱を立てていわゆる鳥居状に架構を組む。柱や梁は湾曲した材も多く、一部には栗材等の雑木で構成されているとの事でした。

現在は、内部修復工事として、柱材の「根継ぎ」処理の段階で、荒壁及び、床組み(板張り)の施工はこれから着手し、来年 1 月いっぱい竣工との予定です。

現状の悩みとしては、左官職人が集まらず、困っているとの事でした。内部施工中でしたが、薄暗い内部空間にもかかわらず、当時の庶民の住居と生活が垣間見れた気がしました。おおよそ 1 時間半の見学会でしたが、なかなか普段、都会に住む私たちには見られない材料を使い、また味わいにくい空間を体験できる貴重な見学会でした。

最後にこの見学会を引き受けていただきました、懶魚津社寺工務店の関係者の皆様、特に「なごや歴まちびと」第 1 期生でもある代表取締役社長魚津忠弘様、並びに現場担当の同社員野口英一郎様には、御礼と感謝を申し上げます。

すぐれない天候にもかかわらず、ご多忙の中、15 名の皆様にご参加頂きありがとうございました。

(文責 なごや歴まちびと 稲田進一)

